



No.16

2013年7月

学校図書館

司書だより

図書館クイズ

今年、生誕100年を迎えた“新美南吉”。次の作品の発表された順番、わかりますか？

- ・でんでんむしのかなしみ・おじさんのランプ
- ・ごん狐

読書

読書タイムはつくるもの

井戸 千恵子

「あなたの作文を読んで、きつこの子は、よく本を読んでいる子ですねって、今日みえたお客様が、褒めてくださっていましたよ。」

と、小学校五年生の時、担任の先生に言われ、何か後ろめたい気持ちになったことを思い出します。正直、私は、進んで本を読むタイプでもなく、しいて言えば泥団子を作ったり、まっ白い雲を眺めながら空想にふけったりするのが大好きな子どもでした。ですから、私の読書生活を振り返ってみると、主体的に読書に取り組むというよりは、読まざるを得ない状況に置かれて、仕方なく読書したと言った方がぴったりなのです。そうした状況が顕著だった時期が、私の人生において三度あります。

まず、その第一期は、小学校六年生の頃です。国鉄マンの厳格な父は、一家の主として絶大な権力を誇っていました。母は家庭を守り、内職をしては家計を助けておりました。そんなある日、我が家に「少女世界名作文学」という分厚い全集が届きました。母は父に「目の前にいろいろな本があれば、子どもはすぐ手にとれます。」

私は子どもたちのために必要だと考え注文しました。」と強い口調で話していました。日頃、父に口応えなどしない母のこの言葉が、妙に心に響きました。その日から姉と私は、何十冊ものその全集を読まざるを得ない状況になったわけです。

第二期は、高校入試を控えた一月、突然中学校の担任の先生から「今、お父さんがみえて、志望校を変更されていた方がいいか。」と言われました。いいも悪いも父の決定を変えること等できない時代でしたから、うなずくしかありませんでした。合否が微妙な高校より、確実に受かる高校に、志望校を勝手に変更していったわけです。不合格という悲しみを味わわせたくないという親心だったのでしょうが、さすがの私も納得がいきませんでした。その日から受験勉強を止め、読書に耽りました。山本周五郎から池波正太郎等の時代物、さらにはロシア文学にまで手を伸ばしました。ささやかな私の父への抵抗でした。

第三期は、教師になった一年目、図書主任だった先輩が、職員室で灰谷健次郎の本を数冊持ってきてみんなで読み合おうと提案され、それから職員室読書月間が始まったのです。「太陽の子」から始まり、必ず読みきり、一週間次回の先生へ回さなければなりません。帰宅して、教材研究の

合間の読書タイムが、一年間続きました。こうして、私の読書生活は、常に自分を追い込んでの読書でしたが、確かに「読書タイムは自らつくるもの」であることを、今、実感しています。一日のうちで、ほんの数分、本に向かう時間を、家族でつくってみてはいかがですか。

私の読書生活第四期は、「まだ見ぬ孫への読み聞かせタイムになったらいいな。」なんて、勝手に夢見ている今日この頃です。

井戸先生は、蜂屋小学校の校長先生で、今年度から市内の小中学校の図書館教育の推進担当をしておられます。

夏休みは図書館へ

7月から9月まで、中央・東図書館とも朝9時30分の開館となります。閉館は、平日は 中央図書館 午後6時まで、東図書館 午後8時までです。

(土・日・祝日は、両館とも、午後5時15分まで)

図書館まつり(楽しい催しがいろいろ！)

東図書館 7月27日(土)～29日(月)
中央図書館 8月10日(土)～15日(木)

図書館クイズの答え

ごん狐(18歳)でんでんむしのかなしみ(22歳)
おじさんのランプ(29歳)29歳という短い生涯でしたが、千五百をこえる作品を残しています。

読書タイム

市内の学校・園・施設の
子どもと読書をのぞいてみました



美濃加茂市図書館北部分室が平成二十一年八月にオープンして、私達の読み聞かせボランティアも発足しました。メンバーで相談して会の名称を、三和町の初夏に飛ぶホタルにちなんで「ほたるん」にしました。メンバーは町内と町外の人を合わせて六人です。

ほたるん

「ほたるん」の活動は、三和保育園、三和・伊深乳幼児学級、三和小学校での読み聞かせや八月の北部図書館まつりや十一月の三和町のふるさと祭りなどです。今回は三和小学校の朝読書についてお話しします。この活動は平成二十四年六月から始まり、一・二年、三・四年、五・六年の三つの教室に三人が交代で行きます。その時は、前月の読み聞かせの本と重ならないように、活動記録を見ながら本を選びます。



それから自宅で本を読んで、読み聞かせ当日を迎えます。読み聞かせが始まり、子どもたちがどんな反応を示してくれるかハラハラ、ドキドキします。子どもの目は真剣で、私が気がつかなかつた本の中の絵をしつかり見ている時は、ハッとします。

私は子どもの顔を思いうかべながら、市内の図書館で本を選びます。選んだ本と学年と自分がピッタリ合った時はうれしいです。今年からは、小学校の先生にお願いして、国語や生活の中に出てくる本も紹介していただき、この様な本も読みたいと思っています。月に一度の朝の朝の大切な十五分です。子どもたちが本に接して「楽しかったわ。今日も学校の授業をがんばるよ」という明るい気持ちになってもらえるように、これからもメンバーと情報交換をしてこの活動を続けていきたいと思っています。(酒向玲子)

えほん

「おにいちゃんの歌は、せかいいちー」ウルフ・ニルソン作
あすなろ書房 1260円



おうちでは、弟に歌をうたってあげるやさしいおにいちゃん。だけど、学芸会でみんなの前で何かをするなんてできない！両手がふるえて何も食べられないで迎えた当日の朝、準備が進むにつれてどこかに隠れたくなる逃げたくなる…。そんなおにいちゃんに、弟がプレゼントをくれました。素敵な成長のものがたりです。

物語

「れいぞうこのなつやすみ」
村上しいこ作
PICO 研究所 989円



ほんとうに最近夏は暑いですね。つい冷蔵庫をのぞいてしまいます。けれど、ある日冷蔵庫が冷えてない。ストライキを起こし、わたしも夏休みがほしい！プールにつれてって！と言いだします。ほなちやつちやと行こか…ゆかいな関西弁のおはなしです。他にも「ランドセルのはるやすみ」「すいはんきのあきやすみ」「ストーブのふゆやすみ」「そうじきのつゆやすみ」とおもしろいので読んでみて。

この本読んでみて！

小説

「ぼくらのサイテー」の夏 笹生陽子作
講談社 704円

ぼく、通称「桃井」は終業式の日、ケガをしたうえ、夏休みのプール掃除の罰までくだされた。いっしょに掃除をするのは栗田クールでどこか大人っぽいやつで、ちょっと気に入らない。サイテーで始まった夏休みだったが、ぼくと栗田には忘れられない夏となる。少年たちがひと夏を過ごして成長していく姿がとってもさわやかです。

大人向け

「水の未来 世界の川が干上がるとき あるいは人類最大の環境問題」フレッド・ピアス著
日経BP社 2415円

岐阜県の七月は「清流月間」です。本書は世界各地の水問題をとりあげ、中学生の頃にならった「緑の革命」「カナー」という知識から、さらに新しく特に関心を向けなければ知らずにいる情報、しかし、地球に生きる私たちに大切なことを伝えてくれます。東図書館では青年海外協力隊としてタンザニアに二年おられた嶺川英希さんに「隊員活動を通じて感じた水の大切さ」という講演を開催するのは是非「参加ください」。7/27(土) 14:00~15:00

